

国立情報学研究所 学術コンテンツサービスの の最近動向

2016-09-16(Fri)

国立情報学研究所 学術基盤推進部
学術コンテンツ課 CiNii/新CAT担当
上村, 順一||うえむら, じゅんいち

Report on the latest development of Academic Information service

2016-09-16(Fri)

Academic content team

Scholarly and Academic Information Division,
National Institute of Informatics(NII)

Jun'ichi UEMURA

- ① 学術コンテンツ課体制の変更
- ② オープンアクセスリポジトリ推進協会の設立
- ③ CiNiiの動向
- ④ NACSIS-CAT/ILLの動向
- ⑤ ERDB-JPのご紹介
- ⑥ 質疑応答



- ① **Modification of Scholarly and Academic Information Division**
- ② **Establishment of Japan Consortium for Open Access Repository(JPCOAR)**
- ③ **Trends of CiNii**
- ④ **Trends of NACSIS-CAT/ILL**
- ⑤ **Introduction of ERDB-JP**
- ⑥ **Q & A**





①

学術コンテンツ課体制の変更

Modification of Scholarly and
Academic Information Division

- 2015年4月に，業務内容に合わせてチームを再編
 - 増員等はなし
- 旧：
 - 支援チーム
 - 図書館連携チーム
 - コンテンツチーム
- 新：

①支援チーム	係長1・係員1・ 有期雇用4	庶務・SPARC Japan・図書室
②学術コンテンツ 整備チーム	係長2・係員1・ 有期雇用1・特任 技術専門員2	CAT/ILL・新CAT・CiNii Articles/Books/Dissertations・ ERDB・REO
③研究成果整備 チーム	係長2・係員2・ 有期雇用3・特任 技術専門員1	KAKEN・IR・NII-DBR・NII- ELS

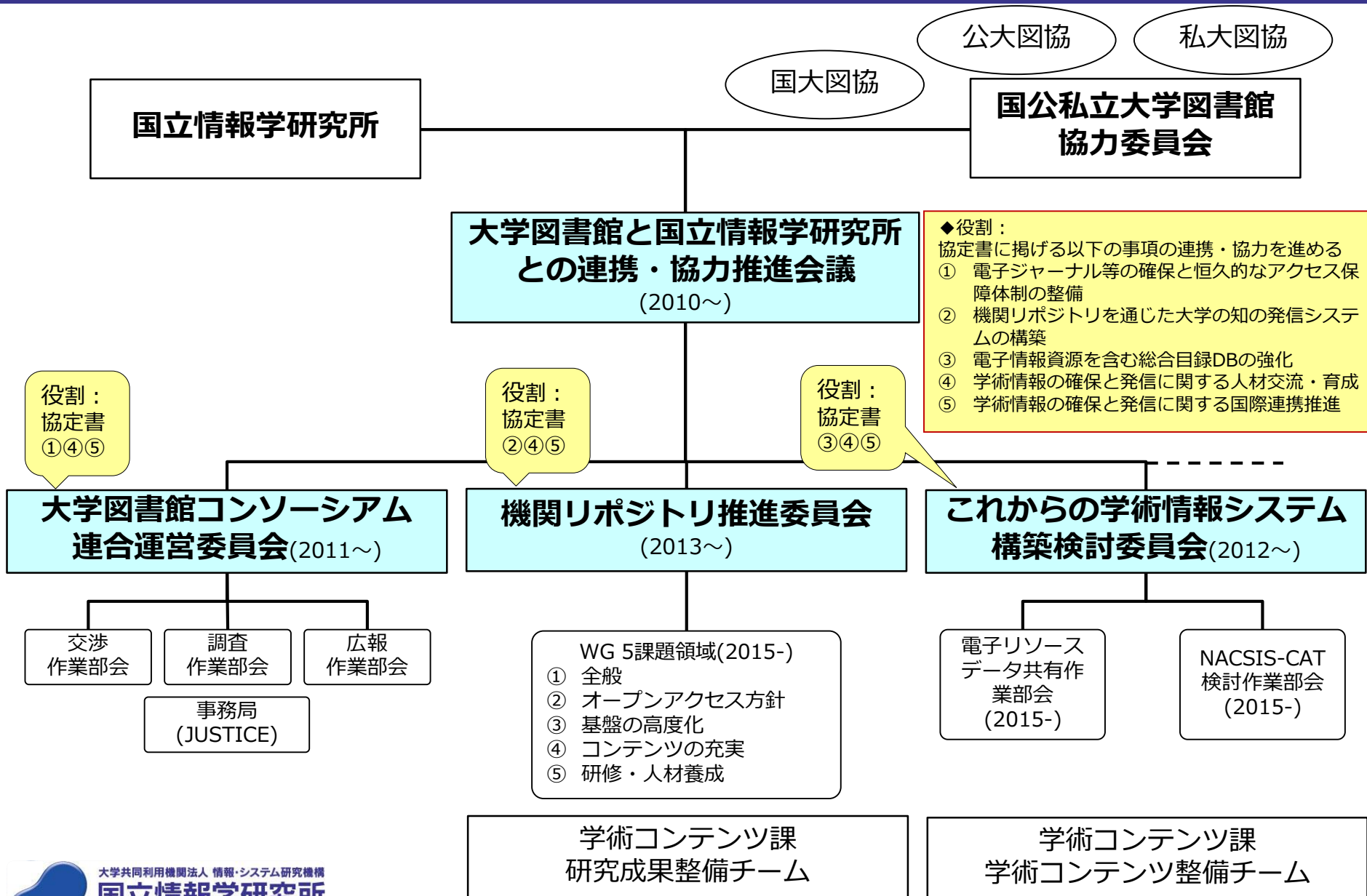
- **Restructuring the team in accordance from 2015-04-**
 - No increase in the number
- **旧:**
 - Library Support Team
 - Library Liaison Team
 - GeNii Development Team

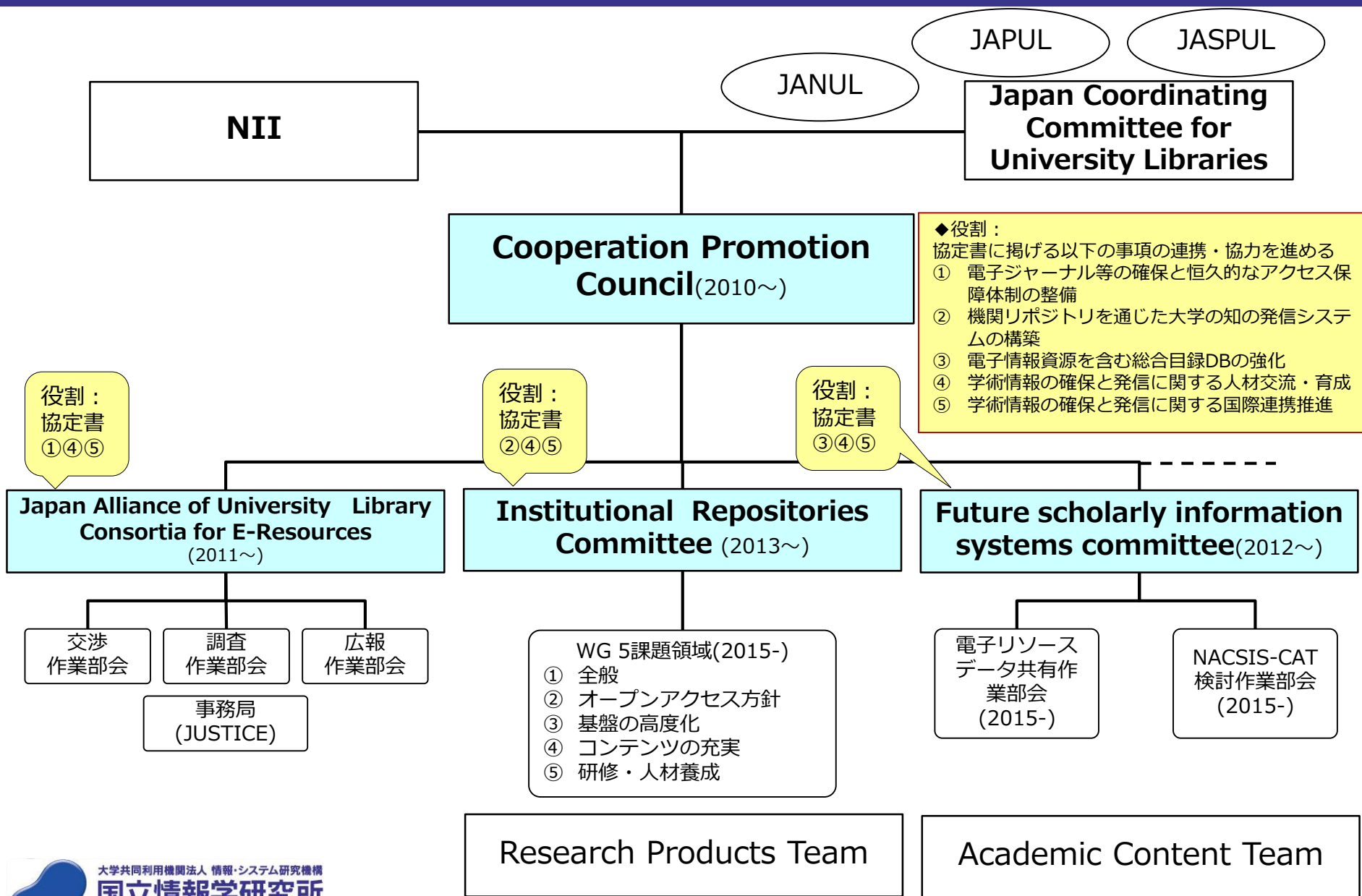
• **新:**

①Library Support Team	Chief 1・係員1・有期雇用4	General affairs・SPARC Japan・Library
②Academic Content Team	Chief 2・係員1・有期雇用1・特任技術専門員2	CAT/ILL・NewCAT・CiNii Articles/Books/Dissertations・ERDB・REO
③Research Products Team	Chief 2・係員2・有期雇用3・特任技術専門員1	KAKEN・IR・NII-DBR・NII-ELS



大学とNIIとの関係





役割：
協定書
①④⑤

役割：
協定書
②④⑤

役割：
協定書
③④⑤

◆役割：
協定書に掲げる以下の事項の連携・協力を進める
① 電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保障体制の整備
② 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
③ 電子情報資源を含む総合目録DBの強化
④ 学術情報の確保と発信に関する人材交流・育成
⑤ 学術情報の確保と発信に関する国際連携推進



②

オープンアクセスリポジトリ推進協会 の設立

Establishment of Japan Consortium for Open Access Repository(JPCOAR)

- 機関リポジトリを中心としたオープンアクセスを推進するための「オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)」が設立
 - 2016年7月27日(Wed)
 - 大学図書館, NII, NIIの共用リポジトリサービスを利用している機関などから構成
- 参加意向を示した機関数: 376機関
- 当面の重点目標
 - ① オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善
 - ② 機関リポジトリシステム基盤(JAIRO Cloud)の共同運営と有効活用
 - ③ 機関リポジトリ公開コンテンツの更なる拡充
 - ④ 担当者の人材育成のための研修活動
 - ⑤ 国際的な取組に対する積極的連携



CiNii

日本の論文をさがす

Articles



CiNii

大学図書館の
本をさがす

Books



CiNii

日本の博士論文をさがす

Dissertations

③

CiNiiの動向

Trends of CiNii



◆CiNiiが終わるのではありません

◆終わるのは**NIIによる学術雑誌の電子化**のみです

- NIIによる電子化そのものは既に終了しています
- 2017年3月末頃に新CiNiiシステムへ移行
 - その時点でNIIでの課金も終了します
 - それ以外は基本変化なし
- CiNiiで論文本文に到達する機能は**変わりありません**
- 現在、NII-ELSに搭載していた、NIIが電子化した学協会誌・大学紀要の移行手続き中



- **移行先**
 - JST(科学技術振興機構)のJ-STAGE
 - 各学協会独自のプラットフォーム等
 - 各大学の機関リポジトリ(IR)
 - JAIRO Cloud
 - etc……
- **申請がなかった学協会誌・大学紀要の論文の扱いは現在検討中**



- なくなるもの

[<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20160315>]

- NIIでの課金・クレジットカード決済

- 各学協会で課金を継続する場合あり

- 機関定額制

- サイトライセンス個人ID

- 個人ID

- PPV

- 残るもの

- 自館OPAC優先表示機能

- 機関単位の管理はそのまま残ります

- 学認(Shibboleth)による個人認証



• 公開済

– 全国遺跡報告総覧とのデータ連携

[<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20160323>]

[<https://support.nii.ac.jp/en/news/cinii/20160323>]

- 2016年3月23日(Wed)から

– 電子リソース情報とのデータ連携

- ERDB-JPとの連携

• 改修中

– HathiTrustのデジタル本文へのリンク

– 国立国会図書館NDLデジタルコレクションの本文情報へのリンク

– 今年度(システムリプレイス以前)にリリース予定



- **試験公開**
[<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20150611>]
– 2015年6月11日(Thu)
- **正式公開**
[<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20151028>]
– 2015年10月28日(Wed)
- **全文検索機能公開**
[<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20160524>]
– 2016年5月24日(Tue)
– IR由来の本文PDFのみ対象(NDLデジコレは対象外)
- **API公開**
[<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20160908>]
– 2016年9月8日(Thu)



④

NACSYS-CAT/ILLの動向

Trends of NACSYS-CAT/ILL

- ◆ **NIIがNACSIS-CAT/ILLの運用を終わらせる/放置する/手放すのではありません**
- ◆ **NACSIS-CATは基本的な学術情報基盤であり, 2020年で運用終了するということはありません**
- ◆ **次の一歩を踏み出すのに, NIIだけですむ問題ではなくなっています**

- 「これからの学術情報システム構築検討委員会」及び「NACSIS-CAT検討作業部会」にて継続検討中
 - これから委員会は14回, NACSIS-CAT作業部会は7回開催
 - 現場の図書館員が担当
 - NIIは作業部会の事務局とサーバの運用を担当
- 『[NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について\(基本方針\)](#)』を公開
 - [<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/2016/08/nacsis-catill.html>]
 - 2016年8月31日(Wed)
 - 「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の第12回会議により承認
 - 引き続き, NACSIS-CAT検討作業部会で「詳細案」を検討中

- 『「NACSIS-CAT/ILLの再構築について(案)」及び「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(基本方針)(案)」に関する意見募集について』
[<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/korekara/>]
- **募集時期: 2016年4月6日(Wed)から4月28日(Thu)**
- **回答数: 119名, 357件**
 - 欧州関係者からは6名, 16件
- **ご回答誠にありがとうございました**
- **サマリ・分析は今年のNII学術情報基盤オープンフォーラム2016の発表資料で**
 - **意見交換会**で佐藤義則先生・小山憲司先生が分析
[http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2016/track/day2_2.html#period2]

- **全体を通して**
 - 移行スケジュールを示してほしい
 - 詳細を早く教えてほしい(2020年までにすべてが実行されると考えている)
 - 説明会を各地で実施してほしい
- **書誌作成機能(NACISIS-CAT)の軽量化・合理化**
 - **外部機関作成書誌データの活用**
 - 外部MARCに書誌があったとしても追加等の修正を行いたい
 - 所蔵のない書誌は明示的にしてほしい(ILL等においては非表示にほしい)
 - 登録予定の外部MARCを示してほしい
 - **典拠レコードリンク形成作業の自動化**
 - リンクする典拠の種類を示してほしい
 - 手動リンク機能も残してもらいたい
 - 自動リンクするよりサジェスト機能を向上する方を希望する

- **書誌作成機能(NACISIS-CAT)の軽量化・合理化[承前]**
 - **レコード調整の廃止**
 - 名寄せが100%でなく、利用者に重複書誌が一定程度表示されるのであればレコード調整は残すべき
 - 外部MARCの名寄せは必要。ただしレコード調整対象となってわざわざ新規書誌を作ったものが旧書誌と名寄せされては無意味=レコード調整は結局必要ではないか
 - **書誌構造リンクの廃止**
 - 利用者が単行書単位で資料の全体像を見られなくなるのは不便である
 - 目録以外の業務のためにもシリーズものを一括して確認できる方法を別途確保してほしい
 - むしろより多重階層(3階層, 4階層…)を認めた方がよいのではないか
 - 中位の書誌レベルがリンクされるようにしてほしい
 - **書誌作成単位の出版物理単位への変更**
 - 同一タイトルVOL違いの書誌が多数存在することによる、検索時の混乱が不安
 - VOL等、絞り込み検索項目を従来より増やしてほしい

• 書誌利用(検索)機能(含むNACSIS-ILL)の強化

- 名寄せの精度次第でILL業務の煩雑化（重複前提で検索すること）に懸念が残る

– 紙媒体資料と電子情報資源の統合的検索環境の提供

- 電子情報資源を含む，総合的な学術情報資源の管理やサービスの今後の在り方に関する全体像を示してほしい
- 電子情報資源のILLのためのシステム構築の絵を示してほしい
- 電子情報資源の組織化はCAT再構築と別枠で議論した方がよいのではないか
- 紙と電子を統合的統一的に1つのシステムで管理するシステムへ移行してもらいたい

– 「名寄せ」による重複書誌データの管理

- 実際のテストデータを元にした精度を知りたい
- 実験結果を公表してほしい
- 名寄せしたデータがどのように表示されるのか具体的な画面例が見たい
- ID以外のキーも名寄せ実施可否の対象にしてもらいたい(IDが同じでも別書誌が存在するから)

- **実現に必要な措置**

- **準拠する目録規則**

- 新NCRができてから議論してもよいのではないか
 - 新NCRができる前に意見を求められても回答できない

- **研修制度の検討**

- 新システム導入前に研修をお願いしたい

- **ローカルシステムへの対応**

- リプレイススケジュールを示していただきたい
 - ベンダーとの情報交換の場に大学図書館が参加できるようにしてほしい
 - 早めにベンダーと検討を進めてもらいたい

- **書誌作成機能(NACISIS-CAT)の軽量化・合理化**
 - 書誌作成と書誌管理作業の軽量化
 - MARCをそのまま使う
 - データ構造の見直しによる合理化
 - 2階層書誌及びVOL積みを止めます
 - 「フラットな書誌」
 - 全ての書誌レコードにIDを付番
- **書誌利用(検索)機能(含むNACISIS-ILL)の強化**
 - CAT(書誌登録・修正)機能とILL(書誌利用)機能の分離
 - 紙媒体資料と電子情報資源の統合的検索環境の提供
 - ERDB-JPとの連携
 - 「名寄せ」による重複書誌データの管理
 - 「名寄せ」機能で統合された書誌を利用

- **現時点での項目名**
 - ① **出版物物理単位での書誌作成**
 - ② **外部機関作成書誌データの活用**
 - ③ **レコード調整の廃止**
 - ④ **書誌構造リンクの廃止**
 - ⑤ **典拠レコードリンク形成作業の自動化**
 - ⑥ **自動登録対応機能の強化**
 - ⑦ **運用ルールの変更**
 - ⑧ **NACSIS-ILLについて**
 - ⑨ **図書館システムへの対応**
 - ⑩ **ロードマップ^o**
- **あくまでも「素案」です**

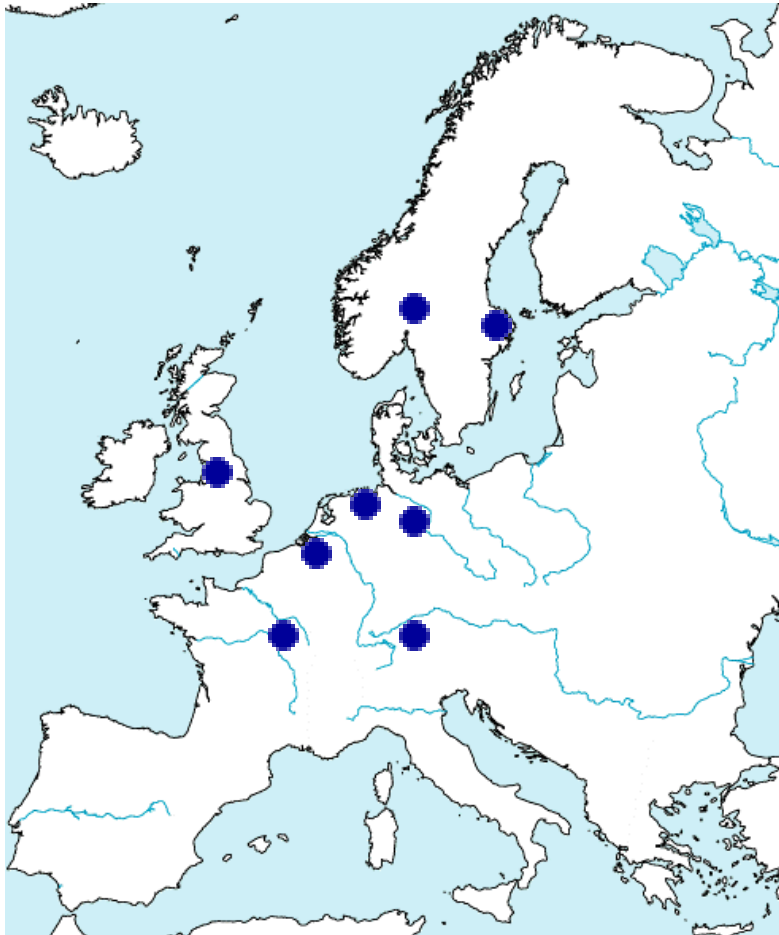
- 「2020年」というのはあくまで目安
 - 今年度末にシステムリプレイス, 5年契約
- 現行NACSIS-CAT/ILLシステムを完全に取り替える事態にはしません
 - 旧CAT→新CATのような(無碍な)変化にはしません
 - 二階層化停止やVOL積み停止でも書誌作成は可能(か?)
 - システムベンダに意向調査を実施予定
 - WebUIPには影響を及ぼさない
 - WebUIPそのものが相当古い設計
 - 今時点ではWebUIPの改修・取り替えは予定していない
- まずは運用面で変更できることを実施する
- 次にシステム改修を実施する
 - 改修規模は検討中

- **日本図書館協会 第102回全国図書館大会東京大会**
 - 2016年10月16日(Sun)
 - 青山学院大学青山キャンパス
 - **第2分科会 大学図書館「2020年に向けたNACSIS-CAT/ILLの再構築」**
[<http://jla-rally.info/tokyo102th/index.php/subcommittee/section02>]
- **第18回図書館総合展**
 - 2016年11月9日(Wed)
 - パシフィコ横浜
 - フォーラム「NACSIS-CAT/ILLと電子リソース：2020年の学術情報システム」



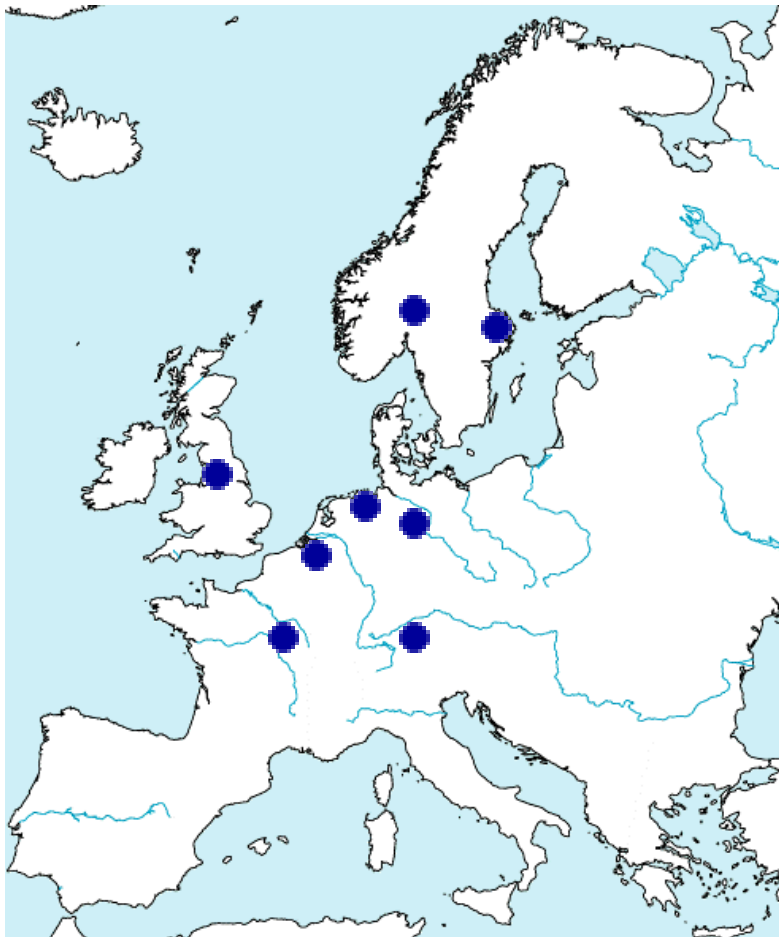
④'

NACSIS-CAT欧州参加館統計情報 Statistics of NACSIS-CAT/ILL (配付資料のみ)



国名	機関数
イギリス	13
ドイツ	10
スイス	2
スウェーデン	1
ベルギー	1
ノルウェー	1
フランス	1
オランダ	1

欧州参加館: 全30館



国名	機関数
U.K.	13
Germany	10
Switzerland	2
Sweden	1
Belgium	1
Norway	1
France	1
Netherlands	1

Member libraries of Europe: 30

1	ベルリン国立図書館	151,989
2	オックスフォード大学 ボドリアン図書館	81,828
3	ケンブリッジ大学 図書館	57,409
4	ブリティッシュ・ライブラリー	43,815
5	ロンドン大学 SOAS図書館	43,587
6	独立行政法人 国際交流基金 ケルン日本文化会館	22,381
7	ハイデルベルク大学東アジア研究センター日本学研究所	21,904
8	アルザス・欧州日本学研究所 図書館	21,181
9	シェフィールド大学 日本研究センター	14,005
10	ミュンヘン大学 日本学科	13,344

(2016-07現在件数: 図書+雑誌)

NACISIS-CAT current top 10 registered record holders in Europe

1	Staatsbibliothek zu Berlin	151,989
2	Oxford University	81,828
3	Cambridge University	57,409
4	The British library	43,815
5	SOAS Library, University of London	43,587
6	Japanisches Kulturinstitut Köln (The Japan Foundation)	22,381
7	Universität Heidelberg	21,904
8	Centre Européen d'Etudes Japonaises d'Alsace	21,181
9	University of Sheffield	14,005
10	Universität München	13,344

NACISIS-CAT 欧州参加館所蔵登録件数増加トップ10 (2015-2016)

1	ベルリン国立図書館	15,601
2	オックスフォード大学 ボドリアン図書館	2,446
3	ロンドン大学 SOAS図書館	1,327
4	ベルリン日独センター	1,116
5	ケンブリッジ大学 図書館	1033
6	チューリヒ大学 東洋学部 日本学科図書館	837
7	ルーヴァン大学 東方図書館	816
8	在英国日本国大使館 広報文化センター図書館	513
9	セインズベリー日本藝術研究所	498
10	ハイデルベルク大学東アジア研究センター日本学研究所	243

NACSIS-CAT top 10 increase in record numbers in Europe for 2015/2016

1	Staatsbibliothek zu Berlin	15,601
2	Oxford University	2,446
3	SOAS Library, University of London	1,327
4	Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin	1,116
5	Cambridge University	1033
6	University of Zuerich	837
7	East-Asian Library KU Leuven	816
8	Japan Information & Cultural Centre Library, Embassy of Japan, London	513
9	Sainsbury Institute	498
10	Universität Heidelberg	243

ERDB-JP

Electronic Resources Database-JAPAN

⑤

ERDB-JPのご紹介

Introduction of ERDB-JP

- 電子媒体のナレッジベース
- ERDB-JP:
「Electronic Resources Database-JAPAN」
- 当面の目標
 - ① 日本のナレッジベースの構築
 - ② 日本の電子リソースを世界に発信
 - ③ 電子リソースのアクセス環境の改善
- 図書館とNIIとの共同運営・共同構築
- 汎用Webブラウザがあれば利用可能
- データはCC0 1.0 Universalで公開
- データ利用もシステム利用も無料

HOME

概要

コンテンツ

パートナー

ドキュメント

お問い合わせ

日本の電子リソースを世界へ

11,092 Titles, 40 Partners

ERDB-JPは、大学・出版社・ナレッジベースベンダーが協力して構築する、日本で刊行された電子リソースのデータ共有サービスです。

サイト内に登録されたデータはCC0 1.0 Universalの下に提供されています。

データの検索・閲覧・エクスポートおよび新規登録・修正・削除依頼はどなたにでも行っていただけます。

ユーザーログイン

アカウント *

パスワード *

✧ アカウントの作成

✧ パスワードの再発行

ログイン

News

2016-06-24

同志社女子大学がパートナーBに参加

2016-06-07

国立民族学博物館がパートナーAに参加

2016-06-03

青山学院大学がパートナーAに参加

✧ 1 ✧ 2 ✧ 3 ✧ 4 ✧ 5 ✧ 6 ✧ 7

✧ 8 ✧ 9 ✧ … ✧ 次 ✧ 最終 ✧

言語

- English

- 日本語

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
 これからの学術情報システム構築検討委員会
 電子リソースデータ共有作業部会

- 日本国内で刊行された電子リソースのナレッジベース
 - 編集，発行の責任主体が日本にある電子ジャーナル・電子書籍
 - あるいは日本語が主な使用言語となっている電子ジャーナル・電子書籍
 - パッケージでない(=CiNiiやJ-STAGEではない)
 - 電子リソースのタイトルや提供機関・URLなどの情報を入力するメタデータベース
- IRに搭載の大学紀要が該当

- **大学図書館とNIIとの共同構築**
 - データ登録ユーザは「パートナー」
 - パートナーは2種類
 - パートナーA: 自館のみならず他館データも修整可
 - パートナーB: 自館のみ修正可
 - 任意に選択可
 - 途中で変更可
- **大学図書館とNIIとの共同運営**
 - 「これからの学術情報システム構築検討委員会」の実働部隊である「電子リソースデータ共有作業部会」によって運営中
 - 電子リソースデータ共有作業部会は8回開催
 - 現場の図書館員が担当
 - データ修正のほか、ERDB-JPに寄せられる質問にも回答
 - NIIは作業部会の事務局とサーバの運用を担当

- ネットに繋がったwebブラウザ
- パートナーの登録
 - ~~大学, 短期大学, 高等専門学校, 大学共同利用機関, 文部科学省・文化庁の施設等機関~~→
 - ERDB-JPのデータを責任を持って登録・更新・削除等のメンテナンスをしていただける機関・組織の内, 電子リソースデータ共有作業部会が適当と認めた機関・組織を対象
 - アカウントの発行は1機関・組織につき1つ
 - 個人には発行しない
- 登録数
 - パートナーA: 32機関
 - パートナーB: 8機関
 - 収録タイトル: 11,630



⑥
質疑応答
Q & A

Q:

電子図書館事業の終了の理由として、今後は大学あるいは各研究機関の機関リポジトリを通じて学術データの公開することを中心に考えるため、とあった。これは、各機関がNIIにメタデータを提供し、NIIがJAIROなどを構築、それら学術データの一括検索を可能にすると、理解してよいだろうか？

もし、そうであるならば、メタデータの質にばらつきなどがでたり、そもそもメタデータを入手できないということもありうるのではないか。とすると、「一括検索」は本当に実現できるのか？

Q:

機関リポジトリには、学術論文以外にも、学会発表資料、プレプリント、調査報告書などの資料もNIIの検索サービスで検索できるのか？

Q:

WebUIPの画面を変える予定があるならば、CiNiiのように資料種別 (Format) が検索できるフィールドを設けていただければと希望する。これは一部の図書館だけの事情だと思うが、比較的視聴覚資料の受入があるために、このフィールドがあると検索で便利になると思うためである。

Q:

同様に2020年をめざしたNACSIS-CATの変更について、欧州参加館の要望などをどこまでNIIが汲みいれようという意志をお持ちだろうか。もしあるとしてそれが日本の図書館側からの要望と対立した場合にどういうふうに意見調整や意思決定がなされるのか伺えればと思う。

- [大学図書館と国立情報学研究所との連携・推進会議 / Cooperation Promotion Council](http://www.nii.ac.jp/content/cpc/)
[<http://www.nii.ac.jp/content/cpc/>]
- [これからの学術情報システム構築検討委員会 / Future scholarly information systems committee](http://www.nii.ac.jp/content/korekara/)
[<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/>]
- [オープンアクセスリポジトリ推進協会 / JPCOAR](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/)
[<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>]
- [ERDB-JP](https://erdb-jp.nii.ac.jp/)
[<https://erdb-jp.nii.ac.jp/>]



ご静聴ありがとうございました

